

<全体分析>

試験時間 90分

解答形式

記述式 43 問 (解答数) 選択式 1 問 論述式 13 問 (総字数 590 字) 計 57 問

*問 2 の(1)は字数設定がないため、記述式としてカウントした。

分量・難易 (前年比較)

分量 (減少・やや減少・変化なし・やや増加・増加)

難易 (易化・やや易化・変化なし・やや難化・難化)

分量については、全体の問題数は昨年と同じだが、論述式の問題は 1 問減った分、総字数が減少したため、やや減少とした。難易については、記述式の問題でやや詳細な知識を問う問題がみられたものの全体としては答えやすいものが多く、また論述式の問題は概ね教科書の記述に則したものであったため、やや易化とした。

出題の特徴や昨年との変更点

例年、大問 4 つで、①は古代 (原始を含む場合あり)、②は中世、③は近世、④は近現代という構成をとっているが、近年はこういった構成にとらわれず、時代をまたぐ出題もみられる。また、蝦夷地・北海道や、18 世紀後半以降の対露関係がテーマとして取り上げられるのも特徴である。一方、「歴史総合」も出題科目となっており、③や④で出題された。

その他トピックス

2023 年以来、3 年ぶりに選択式の問題が出題された一方、3 年ぶりに戦後史から出題されなかった。また、蝦夷地・対露関係史に関連する出題もなかった。

<大問分析>

番号	出題形式	出題分野・テーマ	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
①	記述式 選択式 論述式	原始・古代の政治・社会 ・前方後円墳とヤマト政権 ・三善清行の「意見十二箇条」《史料》	問 1 はイの「纏」の漢字が難しい。問 2 は遺跡がヤマト政権の発祥地であることを文章から確認し、各地の土器がここに運ばれていることから考えたい。問 6 の「意見十二箇条」の書かれた時代は、問 7 (2) の内容から 10 世紀頃と判断する必要がある。	標準
②	記述式 論述式	中世の政治・文化 ・東大寺の再建事業 ・皇統の分裂	問 3 (2) の「当時」は重源が栄西と行動を共にしていることから 12 世紀後半と判断したい。問 8 (2) は足利氏の立場を考えると混乱しそうだが、設問と史料をしっかり読んで対応したい。	やや易
③	記述式 論述式	近世の政治・外交・文化 ・ペリーの来航と開国要求《史料》	問 1 (2) はアメリカのカリフォルニア獲得を念頭に置いた問題で、歴史総合の範囲からの出題と思われる。問 4 (2) は鎖国体制下にあつて国交を有する朝鮮、琉球を想起する。問 5 は著者が福岡藩の「御用達商人」であることに注目する。	標準
④	記述式 論述式	近現代の政治・経済・外交 ・20 世紀前半の国内政治と経済《史料》	問 1 のア、問 5 (2) は史料・設問のいずれからもヒントが得にくく、解答を決めにくい。問 3 は解答すべき内容をどこまで絞り込むかがポイントになる。	やや易

※難易度は 5 段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

記述式の問題については、本番で取りこぼしがないうよう、教科書を中心に歴史用語を確実に定着させる。論述式の問題については、教科書の説明に則した歴史理解を心がけ、歴史事象の背景や因果などを意識しながら学習し、比較的短い字数の問題を素材にして練習を繰り返す（可能であれば添削指導を受ける）。また、過去の出題と類似したテーマから出題される傾向があるので、過去問もしっかり解き、理解を深めておくようにする。